



森のなかま

2015年12月号
NO. 92号 (継続237号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 久保 重明
〒243-0014 厚木市旭町1丁目8-14・グリーン会館 TEL046-280-4101・FAX046-280-4102

市民祭りパンフレットトップ



“第38回かわさき市民祭り 街頭キャンペーン”

日：11月1日（日）晴れ、11月2日（月）雨、11月3日（火）晴れ
場所：川崎市川崎区富士見公園 おまつり広場西ゾーン西スタンド2FL

＜ 普及啓発部会長 足立 功 4期 ＞

出店場所と入場者数

今年も私達の出店場所は屋内となりました。11月2日は冷たい雨と気温で入場者が極端に少なかったのですが、皆さんの努力の結果、11月1日は今までで最多、11月3日は昨年とあまり変わらないお客さまに来て頂きました。

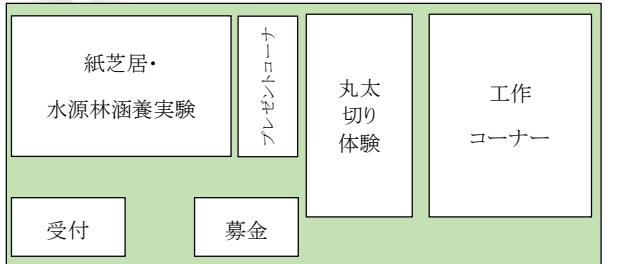
参加者	
11月1日	410人(大人220人、子供190人) 最多記録
11月2日	70人(大人 42人、子供 28人) 最少記録
11月3日	296人(大人149人 子供147人)
合計	776人

キャンペーン実施内容

- (1)「紙芝居(水は森林からやってくる)」、「クイズ(問いかけ)」、「水源涵養機能実験コーナー」等より、「森林の働き」を通じて、「水源の森林づくり」事業の理解を図る。
- (2)間伐材丸太切り体験
- (3)木工教室(間伐材の輪切りを使った工作等)
- (4)リーフレット配布等による「水源の森林づくり」の広報
- (5)トラスト会員勧誘および普及啓発活動
- (6)第38回かわさき市民祭り実行委員会との連絡調整



2015年度 屋内会場の風景と配置



屋外・屋内でのお客様の案内

受付・緑の募金とガラポン

受付

ガラガラポン 大当たり

紙芝居と水源涵養実験

お話をちゃんと聞いた方にはプレゼントが！！

森林のお話と実験

台座作り(疑似間伐体験)

どんぐりクラフト

完成

丸太切り体験とどんぐりクラフト

(写真撮影：足立氏④、星野氏⑬)



(奮闘中の大澤さん)

森林部会主催 平成27年度 「チェーンソー 研修会(経験者コース)」

日時：10月25日(日)、 9:00~15:30、晴れ時々曇

場所：やどりき水源林(定着型ボランティア林Bやどりき21)

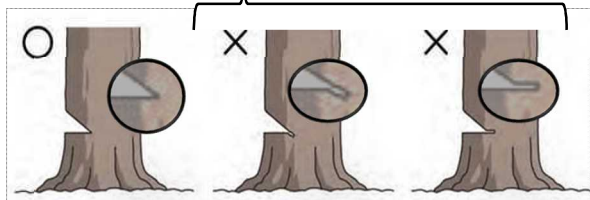
参加者(研修者)13名：滝澤⑤、三浦⑧、飯澤⑨、水津⑨、辻村⑨、上田⑩、大澤⑩、徳岡⑪、大橋⑪、松永⑪、山崎⑫、江上⑬、佐藤正之⑬
運営担当幹事：石川⑫、有坂⑧、佐藤武晴⑤ (○内数字は期)

- 講師：井伊秀博 氏、補助：水野氏(両氏ともNPO 法人森林の風所属)及び 森林部会有志一同
各班の講師：(1班：井伊秀博氏、2班：石川裕一氏⑫、3班：佐藤武晴氏⑤)
- 研修目的：今回の研修はチェーンソー経験者を対象として、間伐作業の基本操作の確認と安全な伐倒技術について学びます。「クサビを使いこなす」、「追いヅル伐り」の方法など安全伐倒技術について講義と実演の後、参加者のレベルに応じた班編成で間伐作業を実習し、作業時の動作や姿勢など基本操作の再確認などを含めたチェーンソーを使用した間伐技術の習得を目標とします。

- 研修対象木：スギ・径20~30cmくらい
- 研修スケジュール：
 - 9:00~ 9:40 集会棟前の広場にてオリエンテーション、移動
 - 9:40~12:00 講義と実演(全体活動) 12:00~12:30 昼食・休憩
 - 12:30~14:10 班分け、基本操作、間伐実習(班別活動)
 - 14:20~15:30 移動(休憩棟裏の広場へ)、チェーンソー手入れ、質疑応答・講評

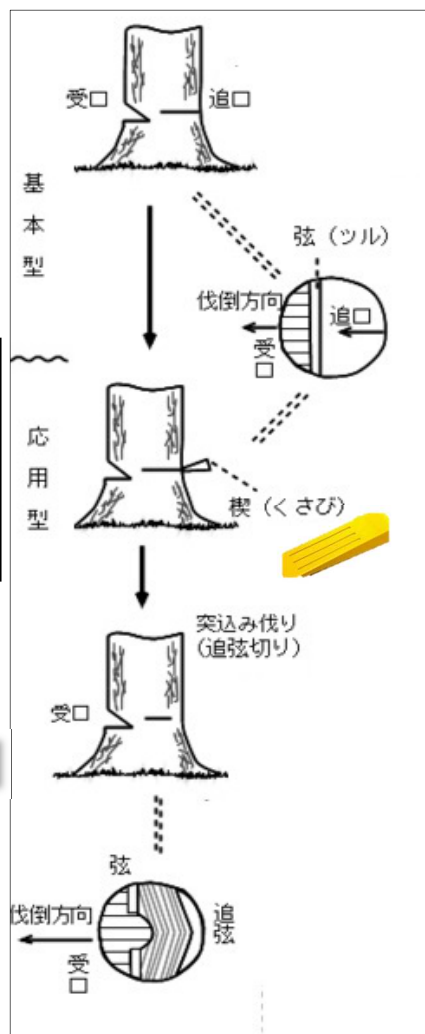
- 此の日にでてきた気になる技術用語の一部 (調査結果)

・ダッチマン、Dutchman(さまよえるオランダ人)⇒



受け口の水平/斜めの
会合線が合っていない
とツルが正確に残らず、
方向性を見失い、どこに
倒れるか分からなくなる
事。(さまよえる)

- ・ヤ(矢)と ⇒ 切り口に打ち込むクサビの事
木や樹脂でできているものをヤ(矢)、金属でできているものをカナヤ(金矢)
- ・つつこみ伐り、追いヅル切り (右図参照)



出典：国立研究開発法人森林総合研究所 上村 巧 伐倒技術の変遷より

作業前に全員で集会棟前広場にて 最前列が井伊氏



チェーンソー等を背負って現場へ
現場到着 一息入れる



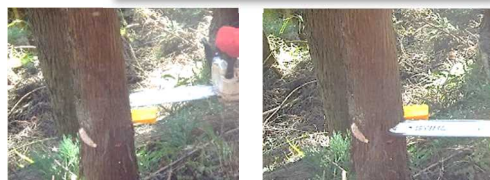
現場講習開始



基本型の受口、ツル、追口



応用型 突込み伐り + クサビ



(写真撮影：石川氏⑫、松本) <取材 広報 松本>

森のめぐみ シリーズ

第11回 林内を漂う香り、テルペン

香りの図書館 館長 谷田貝 光克 氏

枠組は桜の小枝です

林の中を歩くと枯葉のにおい、カビ臭いにおい、動物のにおい、さわやかなにおいなど、いろいろなにおいがします。なかでも木のにおいはさわやかなにおいのもとになっています。木は葉、幹、花、根の各部位からにおい物質を放出します。そのにおい物質のほとんどは木が作り出す精油です。精油にはフェノール類、テルペン類、低級脂肪酸類、アルデヒド類などの化合物が含まれています。これらの揮発性物質が樹木から放出されて森林のにおいを作っているのです。これらの物質よりもさらに揮発性の高いイソプレンという化合物が広葉樹の林には多いことも知られていますが、森林のさわやかなにおいを形づくっているのは主にテルペン類です。テルペン類はイソプレンという炭素数5個の化合物が植物体内で複数個結合して作られた化合物の総称で、イソプレンが2つ結合したものをモノテルペン、3つ結合したものをセスキテルペン、4つのをジテルペン、5つのをセスタテルペン、6つのをトリテルペンといいます(表参照)。



木の精油含量は春から夏にかけて光合成が盛んになるにつれて増加し、夏に最大になりその後秋から冬にかけて減少していきます。これに対応して木から放出される精油の量も夏に多く、冬に少なくなります。木から放出される精油の量、すなわち木のにおいの量は精油含量だけでなく、気温や太陽の光の強さの影響も受けます。気温が高い場合の方が放出量は多く、また、照度が強いほど放出量は多いのです。このことは気温が上がり照度が強くなる夏に放出量が多くなることにも関係していることになり、晴れた日が曇った日や雨の日よりも放出量が多いことから納得できます。曇った日や雨の日は晴れた日の10分の一か

ら50分の一ほどに放出量は減少します。林の中を吹き抜ける風が葉にあたり、あるいは風で葉と葉が擦れ合う葉擦れでも葉が刺激されにおい放出量は増えます。風が吹いてきたときに風に揺れる葉からそれまでにおわなかった香りがするのはそのせいです。

森の中では林内に漂う木のにおいの濃度は場所によって変わってきます。林縁では林の外ににおい

が拡散してしまいますのでにおい濃度は低く、傾斜のある場所では頂上部は濃度が低く中腹部が濃くなります。これは中腹部では上が木で被われていてにおいが拡散しにくいに対して頂上部では木が少なく拡散しやすいからです。また、昼近くに濃度が高くなり午後には低くなりますがこれも気温の上昇とともににおいが拡散するためです。ハイキングなどで木々が出す森の空気に存分に触れるには木々で被われた林内に早めに入り込むのがよいことになります。

(イラスト 広報部 大塚 晴子)

テルペン類の種類		
種類	炭素数 (イソプレンの数)	化合物の例
モノテルペン	10(2)	アルファーピネン、カンファー、リモネン 1.8-シネオール、ボルニルアセテート
セスキテルペン	15(3)	ツヨプセン、カジネン、セドロール、 エレモール、アルファーカジノール
ジテルペン	20(4)	アビエチン酸、ジベレリン、 ピシフェリン酸、フェルギノール
セスタテルペン	25(5)	ゲラニルファルネソール オフィオボリン-A
トリテルペン	30(6)	スクワレン、ラノステロール ルペオール

これらのテルペンのうちでイソプレンの結合数が少なく揮発性の高いモノテルペン、セスキテルペンが森の香りを形づくる主役となります。

樹木精油には通常50~100種類ほどのテルペンが含まれていて、例えば5月の新緑の頃にマツ林からおうヤニ臭いにおいのアルファーピネン、オレンジの香りのリモネン、クスノキの樟脳のにおいのカンファーや、ヒバのにおいのツヨプセン、スギ材のにおいのカジネンなどといったものがあります。これらのテルペン化合物が木から放出されて林内に漂っていることとなります。

活動短信



草露白(9/7~9/11頃)

そうるしろし

第四十三候 白露 初候

水始涸 10/3~10/7頃

みずはじめてかる

第四十八候 秋分 末候

今回の掲載は
9/3~10/4です。
寄稿頂いた中には、紙
面都合や寄稿タイミン
グで次号以降の掲載に
なるものもあります。

場 座間市芹沢公園

参 33名(大人31名、子供2名)

スタッフ (座間市)職員5名

イ L小野⑦、大塚⑩

森林下草刈りは2班に分かれて、歩道脇の緑地帯の整備をし、手鎌や大鎌を手に汗を流しつつ、ケガもなく無事に作業を終えました。広場までの帰路は、シラカシ林内の自然観察をしました。

昼食後の講話では「里山と森」太陽光・バイオ発電の問題点などを話したところ、参加者からも公園内の照明の設置場所など、いろいろな質問やご意見が出て、市民と市職員が森林づくりを考える良い機会となりました。

最後に、参加者全員に座間市より活動証明書と記念品を渡され、永年参加者を全員が拍手でたたえ、最年少のお子さんには近所の方よりカブトムシと鈴虫がプレゼントされました。半日楽しく安全に作業でき、地域活動に根づいていた良い活動でした。

(記 大塚 晴子 11期)

◆ 県民参加・緑の募金保全活動 除伐(笹刈り)

日 9月3日(木)8:30~15:00、曇りのち晴れ

場 箱根仙石原(小塚山トラスト緑地)

参 29名(女性7名、男性22名)

財 鳥海様、豊丸様 看 小林様

用具 小田原森林組合 佐久間様

イ L杉崎⑩、斉藤⑥、武者⑦、村井⑨、小沢⑨

波多野⑪、菌田⑬、古館⑬、小川⑬

雨前線の影響で活動が危ぶまれたが、当日は幸いに晴れて絶好の活動日和となった。定刻8:40小田原駅を四班は二台のバスに分かれて仙石原へ向かった。

財団鳥海様のご挨拶の後、インストラクターリーダーより作業内容、一般的な注意事項等の説明、各インストラクターの紹介・準備体操をし、班毎に装備を付け活動現場へ入っていった。枕木を再利用した木道は雨上がりで滑りそうなので注意を促しながら進んだ。

高木のヒメシャラ、ブナ、ミズキ、ケヤキ、ヤマボウシなどの美しい広葉樹の中の笹(ハコネザサ)の除伐である。現場はほとんど平坦であったが、作業は中腰であるため、参加者の皆さんはかなり疲れたことと思う。額に汗を滲ませながら熱心に作業をされていた。経験者が多く作業はかなりはかどり、ヒヤリハットもなく作業は無事12時に終了となった。

道具の手入れ後、箱根高原ホテル様のご厚意による「温泉入浴」があり、参加された皆さんは「これが楽しみなのよ」と疲れと汗を流しに行かれた。すっかり元気を取り戻されて、屋外の芝生の上で夫々お弁当を美味しく食べていた。森づくりに参加される皆さんのご厚意で神奈川の森が元気になっていく事がとても感じられる活動になりました。

(記 小川 和恵 13期)

◆ 座間市自然保護思想啓発活動

(森づくりボランティア)

日 9月12日(土)9:00~13:00、晴れ

◆ 三菱重工業株式会社 相模原工場

(やどりき水源林での各種活動)

日 9月12日(土)10:00~15:00、晴れ

場 やどりき水源林

参 社員とその家族 50名

県 武田様

イ 総括L小沢⑨、井出①、草野⑧、吉田⑩、菊池①、齋藤⑧、松本⑧、赤崎⑫

<間伐活動>(L小沢)

間伐は林道の最終場所まで歩き鈴廣蒲鉾パートナー林で9名を2班に分れ活動、初心者の方もおり基本作業より説明、間伐の意味と安全、安心作業 間伐作業の手順等と和やかな雰囲気の中伐倒方向の決定とロープ架け、作業場所の整理整頓 受け口の作成より交代で鋸を使用して頂き作業を重ねるごとに上手に成りました。目的方向に伐倒できた時の皆様の笑顔、安どの表情、玉切りを行い無事作業を終了しました。

(記 小沢 章男 9期)

<丸太切り、コースターづくり>(L小沢)

午後のメニューで参加者は6名、コースター用の丸太をセッとし、各自好みの厚さにコースターを切り皮を向く

人、皮をそのまま生かす人、ペーパーヤスリを提供し思いのお土産に満足されて居られました。

(記 小沢 章男 9期)

<森林癒し体験> (L草野)

お客さまは、約30名だが、お相手をするこちらは2名。1班が15名とちょっと多い。プログラムは、①ハンモックで五感を感じる②地面に寝転んで樹冠の揺らぎを味わう。③緑のグラデーションを見る。④水の流れを木伝導で聴く。の4つを用意する。

まずは準備を。ハンモックを8張セットし、シートとマットも敷いて、樹の枝の用意も確認。お客さまは、お父さんやお母さんと子供たちの親子連れが多い。ハンモックは親子で一緒にユラリ、ユラリ。野外で木漏れ日の下その感触を楽しんで頂いた。

川の水の流れの音はあのポコポコという音をしっかりと聴いて。ヒノキの森ではマットに寝転んで樹上を見る。樹の幹の高さ。その上の葉の間に空と雲の動きが見える。のんびりと森の雰囲気にも包まれる。

ただ・・・残念ながら今回は上よりも下だった。ヤマビル。あちこちにたくさんうごめいている。皆さん珍しくて、ヤマビルの動きをキャアキャア言いながら楽しんでいました。子どもは先入観がないので嫌がらないで観察をしっかりとしている。癒しよりもヤマビル観察が印象に残った様子でした。

(記 吉田 郁夫 11期)

<水生生物観察> (L井出)

午後からのプログラム。井出リーダーの指導のもとまずは道具の使い方と網での採集の方法を覚える。各自網やバケツを持って後沢の出合いへ10分ほど歩く。カゲロウやカワゲラなど小さいのが岩の下に張り付いている。サワガニがあちこちにいっぱい居る。採ってからよく見るとお腹に赤ちゃんガニが溢れている。次々とお腹から出てくる。身体は小さいが一丁前の形をしている。カジカも捕まえた。ヘビトンボも居た。プラナリアも小さいのをなんとか確保。広場に戻って、バケツの中の戦果をバットの上に。目を凝らしてよく見ていると虫が泳いでいる。スポイトやスプーンで掬って似たもの同士を集めていく。まとめとして、どんな種類の虫を捕まえたか、分類分けでお勉強。結構色々な種類を見つけることが出来た。なによりも、小川の中にジャブジャブ入っての水遊び。

秋の気配はあるけれども、残暑の晩夏の日を自然の中で楽しんでもらった。

(記 吉田 郁夫 11期)

<草木染め> (L菊池)

初秋漂う今回は、めずらしい赤茶色に染まるコアカソ(葉、茎)と昔はお歯黒にも使われていたヤシャブシ(実)でハンカチを染色しました。

染料の採取から煎出、模様づくり、染色、媒染、完成と他のネットワーク活動より時間を取ったものの、模様づくりに「どんなふうになるかわからない」と不安そうに話されている参加者もいましたが、板や輪ゴム、ビーズをはずし、作品が完成するとその出来栄えにホッとされ、お互いに歓声を上げておりました。

最後にカメラマンの前に立ち、「とびっきり」の笑顔で作品を見せる参加者全員の姿が印象的でした。

(記 齋藤 彰秀 8期)

◆ 川崎市「里山ボランティア育成講座」第3回

日 9月12日(土)9:30～15:00、晴れ

場 川崎市高石緑地保全地区

(里山管理:下草刈り、ツル切り、除伐)

参 28名

スタッフ 川崎市公園緑地協会 野牛様他 1名、
人材バンクスタッフ5名

イ L. 門澤⑫、山崎⑫、溝田⑬

1. 保全活動の実際の紹介 現地団体「高石緑の会」大森様(当日の参加者)9:30～9:40
2. 座学① 水、水源林、手入れの必要性、などの話: 門澤 INST 9:40～10:00
3. 座学② 植樹後の手入れの話、林業応援団紹介:野牛職員 10:00～10:10
4. 座学③ 安全作業の話:山崎 INST 10:10～10:20
5. 作業① 里山管理:下草刈り、ツル切り、除伐 10:20～12:10
6. 作業② 里山管理:下草刈り、ツル切り、除伐継続 13:10～14:10
7. 道具の手入、まとめ、次回の案内、質疑応答 14:10～14:40
8. スタッフミーティング、反省会 14:40～15:00

作業は3班に分かれて実施した。2009年3月に植樹した広葉樹に覆いかぶさっていたクズのツルを切り、

取り除く作業にほとんどの時間を費やした。斜面は急で足元に最大限の注意を払って作業を進めた。幸いけがはなく、参加者は疲れながらも心地よい汗を流した。

昼食後切ったツルを利用したリース作りを楽しんだ。

反省点として、参加者とインストラクターのコミュニケーションの大切さが挙げられた。一斉休憩をとる、道具を落として見つからない時のSOSなど、コミュニケーションがとれれば、行動が揃う、報告・相談がしやすくなる。

(記 溝田 幸和 13期)

◆ 横浜市立善部小学校 自然観察

日 9月15日(火)10:00~13:45、晴れ

場 県立21世紀の森

参 78名(大人12名、子供66名)

イ L小沢⑨、高橋③、白畑⑦、山崎⑦

内野⑨、大原⑬

8月21日、インストラクター全員で天然の森コースの下見を行いました。その後の50年に一度といわれる未曾有の「関東・東北豪雨」の影響を考慮して、安全第一という主催者側の意向で天然の森コースの自然観察を中止し、3班で2グループに分け、交互に木材工芸センターでマイ箸づくりと、森林館のリニューアルした展示室で森づくり、森での仕事、森林の役割等学習しました。

また、限られた時間でしたが、移動時や昼食時に森林館周辺の自然観察を行いました。木材工芸センターでは初めてカンナを使い、夫々にマイ箸を完成させました。リニューアルした展示室も素晴らしく、子供たちに森林の役割、森づくり等をわかりやすく理解してもらった手助けとなったと思います。

2泊3日の最後の活動で、少し疲れ気味の子供もいたようですが、皆、真剣にマイ箸づくりに取り組み、また展示室でしっかり学習する姿が印象に残りました。

(記 大原 正志 13期)

◆ 三菱重工株式会社 新入社員 間伐

日 9月16日(水)10:00~15:45、曇り

下見:区分け、選木等10:00~12:00

本番:13:00~15:45

場 長竹分周林(愛甲郡愛川町)

スタッフ 三菱重工 山崎様、河本様

参 26名(うち女性2名)

県 増田様、星様、他1名

イ L松本⑪、鈴木⑧、松山⑩、上田⑩、松永⑩

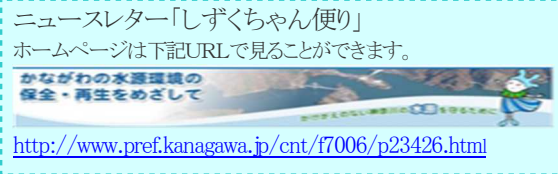
新入社員の間伐体験コース。間伐場所はやどりきには対象木が少ないので今回から長竹になった。直径12~18cm位の17年生ヒノキ10本を5班で間伐。

最初に(県)水源の森林推進グループ 増田様より神奈川の森林の状況と間伐の必要性についてお話。続いてLの松本より間伐の方法、安全について概要を話し、更に、各班毎(26人/5班)に分かれ担当インストラクターより詳細の話をした。

KY(危険予知)は知っていますかと尋ねたら知っているとの事で、では「やってください」というとすぐにリーダーを決めKYを行いました。さすが三菱さん。ノコギリ使用の経験は皆さんあったが、腰がふらつきまっすぐにはなかなかきれなかったが、持ち方や力の入れ加減を指導し後半には慣れてうまく切ることができた。

作業を終了して下山し道具の手入れが終わった頃に雨がパラつく。作業中は曇りで気温もちょうどよく絶好の肉体作業日和だった。ハットヒヤリ、ヤマビル被害も無く(インストラクター1人はヒル吸血あり)終了。

(記 松本 保 11期)



◆ 横浜市立三保小学校

「愛川体験学習 高取山登山・自然観察」

日 下見8月26日(水)、小雨後曇り

本番9月16日(水)、曇り

場 愛川ふれあいの村 高取山

参 小学5年生と引率教師等(167名+15名)

イ L西出⑫、島岡③、堀江④、佐藤⑤、滝澤⑤、

武者⑦、白畑⑦、渡部⑦、有坂⑧、内野⑨、小沢⑨、

海野⑩、加藤⑫、小川⑬、菌田⑬、真部⑬

総児童数1010名の中の五年生ということもあり16班構成で臨み、ただし体調不良と途中下山児童のための自然観察班(七名)を設けることになりました。登山前に、学校側から児童に3点を覚えさせてほしい要望を聞き、その後出発(10:00)となりました。我々は個々人のノウハウ提供を随時行いつつ、定番の樹林帯看板前と各班適宜地での休憩をはさみ頂上に登りつめました(12:00)。

頂上で集合写真撮り昼食そして、希望者は展望台へ上りながめを楽しんでいました。曇りではありましたが下界の風景も見ることができ、下山時刻を迎え下りました。特に、数箇所の危険地では注意をはらい、安全派の児童は時間をかけ、渋滞が起きましたが樹林帯看板前の休憩場所を目指しました。最後は体育館前まで元気にもどりました(14:00)。

また、自然観察班は、「木の実とどんぐり」の本物学習を行いました。児童代表による森林インストラクターの皆さんへのお礼の言葉を聞き、その後、我々は一日を振りかえり安全第一で何事も無かったことを確認しました。

(記 加藤 久雄 12期)

◆ 横浜市立日下小学校

総合的な学習の時間 ～林業の体験をしよう～

- 日 9月16日(水) 10:30～14:00、曇り
- 場 小田原市久野水源林
- 参 小学5年生 99名、教師12名 合計111名
- 財 豊丸様、古館様
- イ L小野⑦、井出①、渡辺③、高橋③、柏倉④、齋藤(武)⑥、齋藤(彰)⑧、村井⑨、杉崎⑩、内田⑩

今にも雨が降り出しそうな天気、ただし涼しく、熱中症は回避できそう。対象木は約20年生のヒノキ、胸高直径は7～10cm位、コースターにして持ち帰るにはベストなもの。リーダーのあいさつの後、班毎に分かれて担当インストラクターより間伐の意義や作業上の注意、体操を行ない、作業に入りました。ロープ掛けや受け口・追い口づくり、伐倒、玉切り、枝払い、コースターづくりとインストラクターの指示に従って、生徒ひとりひとりがまじめに取り組む姿が印象的でした。作業終了後、感想を聞いてみると「ロープ掛けが大変!」「木を切るのは楽しい!でも疲れた。」「ヒノキってこんなに良い匂いがするんだ!」とさまざまな声が聞こえ、林業体験は無事終了しました。

最後に財団の古館様より「いつでも皆さんを歓迎しますよ。また森に来てくださいね。」とあいさつがあり、参加者一同、笑顔で帰路につきました。

(記 齋藤 彰秀 8期)

◆ 県民参加入門コース 除伐

- 日 9月19日(土)、快晴
- 場 相模原市 緑区青根(学校林)
- 参 35名(内、小学生1名)
- 財 内海課長、鳥海様 看 青木様
- スタッフ 青根小学校校長先生、相模原市まち・みどり公社2名、津久井郡森林組合1名
- イ L柴⑩、高橋③、富樫⑥、永野⑥、野牛⑧、後藤⑩、山口⑩、大橋⑩、松石⑬

前日の雨が嘘のように晴れ上がり山々の緑がとても気持ちいい1日だった。片道約1時間半もあった行き帰りのバスもその景色に気分が楽になり、到着後見た青根小学校の木造校舎はとても懐かしい気持ちにさせてくれた。

子ども達の学校林(愛称「あおりん」)は、地域みんなで大切に守り育てられており、今回の除伐作業が大きな手助けになるという校長先生のお話を聞いた参加者の方々にも満足感と達成感を十分感じてもらえたと思った。

(記 大橋 聡 11期)

◆ 秦野たばこ祭に、今年も出店

- 日 9月26日(土)・27日(日) 10:00～17:30
- 場 こども広場(横浜銀行秦野支店駐車場)
- 参 9/26:約300名、9/27:約500名
- イ 9/26:L森本⑤、米本②、中島⑨
9/27:L森本⑤、米本②

第68回秦野たばこ祭に、どんぐりクラフト、グッズ販売と緑の募金で出店。

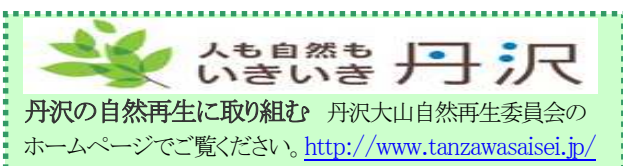
クラフトのキャッチコピーは、「ワン・コイン(500円)で、世界でオンリーワンのどんぐりクラフトが出来ます!」とした。

結果、二日間で76個も申込みがあり、採算性も大幅に向上した。恒例のグッズ販売も堅調で良かった。今後とも、試行錯誤を通して、ビジネスモデルの確立を探っていきたい。

(記 森本 正信 5期)

◆ 鎌倉市公園協会 緑のレンジャーシニア第7回

- 日 9月26日(土) 10:00～13:30、晴れ
- 場 散在が池森林公園
- 参 18名



スタッフ 鎌倉市公園協会 千田様、後藤様

I L安部⑤、小沢⑨

前回の活動で森林公園内を巡回して、公園として気づいた不良箇所をマークして本日の活動目的(枝払い、間伐)とした。10時より後藤様の進行によりオリエンテーション開始、各種道具を身につけて頂き本日の活動場所へ約20分公園管理事務所より歩く、2班に分かれ(各班9名)間伐、枝払い作業にかかる。参加されたシニアの方も斜面での活動には不慣れの事も有り、活動時の鋸の始末や又作業時の足場確保等公園内の山でも良い経験に成った模様でした。

(記 小沢 章男 9期)

◆ 日揮株式会社 長竹分収林 間伐体験

日 9月26日(土)10:10~12:30、曇り

場 長竹分収林

参 社員14名

県 齊藤課長、増田主事

スタッフ (撮影)株式会社 アフロ 関亦様

I L 西出⑫、渡部⑦、有坂⑧、三浦⑧、松本⑪、齋藤(彰)⑧

雨が降り続いたものの、集合時間までには止み、結果的には絶好の“間伐日和”。9時30分、集合場所に参加者が到着、挨拶、準備体操後、バスで長竹分収林へ。現地では4班に別れて、作業場所に向いました。

海外で事業展開をされていることもあり、参加者は日本の他、オーストリア、フィリピン、ベネズエラとまさに多国籍企業。最初は戸惑いもあって、受け口を半分以上切ってしまうか、かかり木になってしまうこともありましたが、英語でアドバイスし合う等参加者同士でコミュニケーションを図られ、あっという間に伐倒終了!というケースも見受けられました。

作業終了後は、明るくなった林内を見渡したり、コースターや杖作りに楽しむ等それぞれが“森の恵み”を楽しみ、オーストリアの参加者から「自分の故郷もこのような自然豊かなところだった。間伐作業を通じて子供の頃のことを思い出したよ。」と感想を話されていたのが印象的でした。幸いにも山ビルによる被害もなく、参加者はそれぞれ満足顔で次の会場に向いました。

(記 齋藤 彰秀 8期)

◆ 県民参加の森林づくり 植栽

日 10月1日(木)、曇り

場 箱根町箱根(畑引山町有林)

参 104名(一般参加)箱根役場職員 5名

財 内海課長、鳥海様、**看** 小林様

I L小沢⑨、友谷①、堀江④、米山④、齋藤⑥、白畑⑦、村井⑨、園田⑨、杉崎⑩、橋本⑩、松本⑪、東⑫、加藤⑫、永松⑫、藺田⑬、星野⑬

天候は曇り、午後から所により雨の予報があったが、空模様は心配なく小田原駅を定刻の8時40分一般参加者、及び関係者一同5台のバスに分乗し出発。

バスは1時間弱で現地、箱根町道の駐車場所に到着した。現場はこの駐車場わきの緩やかな傾斜地。オリエンテーションや小沢リーダー挨拶、準備体操の後現場へと向かう。

この時期としては暑くも寒くもなく、最高の作業日和に一人当たり10本程度の植樹(ヒメシャラ、イロハモミジ、ヤマボウシ、ヤマザクラ、の4種)を5班に分かれ、それぞれの班に用意された苗置き場から運び作業を開始した。

植え付け地は竹の群生を皆伐したあとの枯れ株が随所にあり歩行に注意を要した。

丁寧な植樹に徹しながらも、1時間程度で作業は終了し、班毎にまとまって下山広場での道具の洗浄など手入れの後計画では昼食の予定であったが、そのころになると空模様が怪しくなったため、事務局の判断により即刻バスに乗って箱根高原ホテルに向かった。バスのスタートまもなく雨が激しくバスに降り事務局の機転に感謝しつつ、間もなく到着したホテルで温泉入浴、提供場所での昼食など、本日の作業が癒されたひと時でした。

その後雨の小止みになったホテルからバスに分乗し小田原駅に向かいました。

(記 園田 眞夫 9期)

◆ 相模原市立藤野北・南小学校 間伐体験

日 9月28日(月)事前授業 **I** 内野⑨)

10月1日(木)9:15~13:00、曇り

場 ふじの体験の森・やませみ 大日野原

参 23名(大人6名、子供17名)

スタッフ (やませみ) 小林所長様、

中井様、松石様、下藺様、菊地様

I L内野⑨、富樫⑥、小野⑦

藤野北小学校と藤野南小学校の合同の活動で、「間伐体験のねらい」は、「水源の森地域を大切にす郷土愛を育てたい」ということでした。事前授業はねらいに沿って「森林について」「森林のはたらき」「かながわの水源の森林づくり」「間伐について(人工林の育成・間伐の目的・間伐の方法)」などを中心にパワーポイントの資料や間伐の模型などを使っておこないました。

体験当日、子どもたちに大日野原の森へ入っての印象を聞き、間伐の意義を再確認して各班で作業を開始しました。事前授業の説明を思いだしながら、伐倒方向を決めたり、受け口、追い口を作ったり、つるを残すなど交代で作業をしました。2班ともかかり木になりましたが、ロープで引く位置を変えるなどして無事に伐倒することができました。子ども達も苦勞してかかり木を処理した達成感を味わったようでした。枝払い、玉切りにも熱心に取組んでいました。玉切りした丸太を数本軽トラックまで運びました。作業後、大日野原でお弁当を食べながら地元の秋の自然を楽しみました。

(記 内野 ミドリ 9期)

◆ JX日鉱日石エネルギー株式会社 川崎製造所

- 日 10月3日(土)10:00~12:00、晴れ
- 場 やどりき水源林
- 参 社員と家族 合計186名(大人161名 子供25名)
- 県 水源環境保全課 鈴木様 星様
- イ 丸太筋工 L佐藤⑤、森本⑤、小野⑦、西出⑫、
武井⑬、焼尾⑬

間伐 L小沢⑨、斉藤⑥、山崎⑦、有坂⑧

間伐 L水津⑨、三浦⑧、辻村⑨、

クラフト L小笠原⑩、落合③、白畑⑦、一重⑪、
大塚⑪、門澤⑫、永松⑫

自然観察 L村井⑨、高橋③、増子③、宮本④、
堀江④、斉藤⑧、松本⑧、内野⑨、
谷川⑪、赤崎⑫、真部⑬

<丸太筋工>

前日の雨風の影響もなく、快晴。恒例の「ENEOS みらいの森、森林保全活動」は天候に恵まれた。川崎製造所所長挨拶、ならびに水源環境保全課鈴木様より挨拶。全員で写真撮影後、各作業グループに分かれる。丸太筋工グループは、倉庫脇での道具配布、班分け後早速現地へ向かう。

丸太筋工は、ネットワーク活動においても新しい取り組みとなる。7/25の荏原製作所様ネットワーク活動のときに施工された2箇所の続きとして、4班に分かれての作業を行った。今回は、材料となる間伐材を間伐フィールドから現地へ運搬するところからの作業。参加者は皆、丸太筋工は初めてとなるが、間伐経験者も多く、手元ロープやノコギリの使い方は手慣れたものであった。運搬した間伐材で、1班あたり、横木2m x3本、杭90cm x3本を準備。施工場所を唐鍬で軽く整地後、カケヤで杭を打ち込み、それを支えに横木を3段、番線で固定しながら積み上げる。材も水分を含んで重いため、皆で協力して作業を行うが、製作所勤務の JX の皆様は抜群のチームワーク。材が太い場合、番線を縛る箇所に届かないことが多く、その場合は2本の番線で固定する形をとった。

土留めという森林保全において重要な役割を担う作業を行った後は、大いに充実感を味わい、現場をあとにした。午後の天気も良く、ボランティア後のバーベキューも、きっと美味しく楽しめたにちがいない。

事故も無く、参加者・関係者皆様にとっては充実した一日となったことであろう。

(記 焼尾 徹 13期)

<間伐>

今回の間伐体験は28名を5班に分け、さらに2か所に分散して行われた。それぞれのエリアへ道具を着用し出発した。リピーターの方、鋸作業は初めての方、皆さん急な斜面での作業でありロープを引いて伐倒された時は歓声をあげ無事に間伐体験を味わわれた。

一班のみが決められた時間内に終了できず、次回の体験時にはとの思いが残された体験となった。基本が安全作業であった。

(記 小沢 章男 9期)

<クラフト>

ネットワーク活動事業部 村井がクラフト指導された落合様に電話でインタビューいたしました。当日はどんぐり工作、ロケットラワン、書けない鉛筆づくりの指導をお願いしました。

活動に参加された感想は？ <天気にも恵まれ気分が良かったよ。> 参加者の雰囲気はどうでした？ <年齢層がまちまちだったので、小さいお子さんは作り方を説明してもわからないし、体験なのにどっちが体験しているのかわからない(笑)>

参加インストラクターの活動は？<いろいろ作るものがあつたので良かったと思う>

落合さんが今後指導したい出し物は？<丸い台の上に針金で固定したシュロバツタ、ニスを塗るから1年ぐらい持つし長く飾って楽しめるよ。>

「ありがとうございました。今後とも落合さんにご指導を仰ぐ活動を紹介しますので、健康に留意して元気にお暮しください」

(記 落合 洋右 3期 ⇒ 村井 9期 代筆)

<自然観察>

自然観察は11班編成で、それぞれ10名以下のまとまりやすい人数で行われた。

集会棟側と管理棟側からに分かれてBコースに入る。この時期、目立つ花は少ないが、実をつけている木が見られ、ミヤマシキミの赤い実が目をつけた。アブラチャンの実を割ってみるとナッツのようで、おいしそうという声もあがった。

秋晴れの天気にも恵まれて、樹冠からの木もれびの中、沢すじの澄んだ水の流れや真っすぐに立ちそろうスギやヒノキを見ながら気持ちよく歩くことができた。

この時期ならではのさわやかな水源林の雰囲気を楽しんでいただけたように思う。

(記 真部 幸枝 13期)

◆ ソレイユの丘 街頭キャンペーン第1日目

日 10月3日(土)9:00~15:00

場 ソレイユの丘(横須賀市長井海の公園)

参 約160名

イ L 福島⑩、安部⑤、竹島③

アースデイ東京多摩実行委員会の要請により「アースデイ2015 in ソレイユの丘」に初めて参加する。テーマは地球環境の保全、改善を啓発する企画。

出店企画1日目は、1)ロケットラフンで植物の生きる知恵に触れる、2)水の音を聞く、3)流れの違いによる水温の変化を体験する企画三つ。空高く回転しながら飛ぶロケットラフンの姿は子供たちの心をつかむ。

午後からは風が強くなり野外での作業に難が出る。また流れの音を聴く企画では小枝を通して聞こえる水の音に皆感嘆の声を上げ、癒されているようでした。

(記 竹島 明 3期)

◆ ソレイユの丘 街頭キャンペーン 第2日目

日 10月4日(日)9:00~16:00

場 ソレイユの丘(横須賀市長井海の公園)

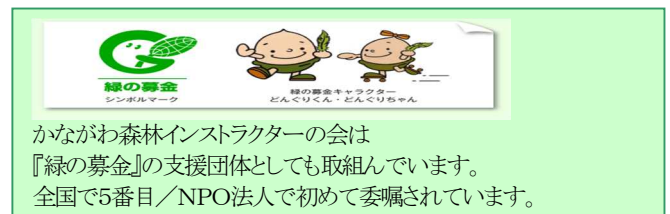
参 約200名

イ L 森本⑤、安部⑤、時田⑩

2日目の「アースデイ2015 in ソレイユの丘」、晴天に恵まれ潮風も心地よく、多くの家族連れの方々がブースに参加して下さった。草笛・森の香り当てクイズ・森の漢字当てクイズと3ブース横一列に並び、音・香り・触る・見る・食と五感を刺激する大変な相乗効果があり、緑の募金にも積極的に協力して頂きました。

草笛はタブ・ヤマモモの素朴な音色が大人気で行列が絶えず、森の香り当てでもクロモジの清涼感や園内ハーブのローズマリーやレモングラスに人気が集まり、折り紙コップに入れてお土産になりました。森の漢字クイズでは「ローズマリーの香りで頭が冴えて正解続出！」など安部インストラクターのトークも楽しく、また父親が娘さんに「ほらピンク色」などとヒントを出して「桃」を当てるなど笑顔で家族の繋がりを感じる和やかで、楽しく、ほっこりする満足度の高い活動となりました。

(記 時田 愉季子 10期)



かながわ森林インストラクターの会は『緑の募金』の支援団体としても取組んでいます。全国で5番目/NPO法人で初めて委嘱されています。

投稿概略フォーマットと略語の説明

ページレイアウトは気にされずバタ書きで結構です。

◆ 活動団体・活動名 等

日 日付 (できれば時間と天気も)

場 場所

参 参加者&人数

県 神奈川県 環境農政局 水・緑部

水源環境保全課 水源の森林推進グループ

財 ((公財)かながわトラスティみどり財団)、看 看護師

スタッフ 例 小田原市森林組合 XX様

例 川崎市公園緑地協会・XX様

イ インストラクター (○数字:期) 研:研修枠

(以下本文を概ね400字を目安として執筆ください)

リーダーは責任を持って執筆者の選択をお願いします。

活動終了後の速やかな投稿をお願いいたします。

11月24日で

“ 満 員 ”

となりました。

申し込み方法 (参加費は無料)

- ①参加希望日と行事名 ②代表者氏名・住所・電話番号 ③会員の方は会員番号
- ④メール申し込みのかたはメールアドレス ⑤同伴者氏名

①～⑤ご記入のうえ メール/FAX/はがき/イベント申込フォームにてお申し込みください。
 問合せ先
 〒220-0073 横浜市西区岡野 2-12-20 (公財) かながわトラストみどり財団 みどり企画課
 *電話 : 045-412-2525 *FAX : 045-412-2300 *メール : midori@ktm.or.jp
<http://www.ktm.or.jp/contents/event/h27/P-26.html>

人も自然も
いきいき
丹沢

2015 年度 丹沢大山自然再生活動報告会

丹沢大山国定公園 50 周年記念フォーラム

～丹沢大山自然再生の歩み～

2015 年 12 月 23 日 (水・祝) 10:45～16:45

会 場 : かながわ県民センター ホール (横浜市神奈川区鶴屋町 2-24-2)
 JR・私鉄「横浜駅」西・北口から徒歩 5 分

対 象 : どなたでもご参加いただけます。(事前の申込みが必要です)

参加費 : 無料 定 員 : 200 名 (先着)

主 催 : 丹沢大山自然再生委員会
 共 催 : 神奈川県自然環境保全センター

★ 参加申し込み方法 :

行事名「丹沢大山国定公園50 周年記念フォーラム」・所属・氏名・電話番号を明記して、
 丹沢大山自然再生委員会ホームページの申込みフォームまたはFAX にてお申込みください。
 【FAX】046-248-0737
 【ホームページ※トップページに申込みフォームのご案内があります】
 ※<http://www.tanzawasaisei.jp/>

★ 申込期限 : 2015 年12 月18 日 (金)

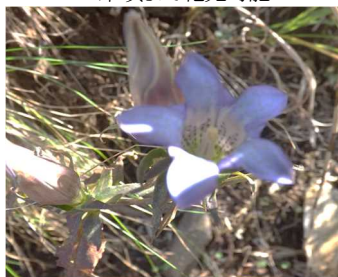
★ 問合せ先 : 丹沢大山自然再生委員会事務局 (神奈川県自然環境保全センター自然再生企画課内)
 電話 : 046-248-0323 (内 298)

**やどりき水源林
ミニガイド**

11月のトピックス

リンドウが咲きました。

11末頃まで花見可能



(11/1 秦野林道にて撮影)

12月の水源林

やどりきは秋の終わりと冬の始まりのコントラストが見られます。動物も山の下に降りてきます。

「森の案内人」情報

(12月、1月、2月は休みです)

- 実施時間：毎週土曜・日曜・AM10時・PM1時、1～2時間程度
- 集合：水源林入口ゲート前
- 内容：森林インストラクターが自然観察にご案内します。森林のしくみ手入れなどについて説明致します。参加自由、参加費無料
- *10人以上の団体は事前に下記までご連絡ください。
- 問合せ：(公財)かながわトラスのみどり財団 TEL：045-412-2255 FAX：045-412-2300
- ホームページ：http://www.ktm.or.jp
- E-mail：midori@ktm.or.jp
- やどりき水源林までの道順
小田急線新松田駅または JR 御殿場線松田駅下車、富士急湘南バス「寄(やどりき)」行き乗車約 25 分。バス下車後(案内板あり)川沿いに徒歩 35～40 分。
寄大橋の右横が水源林ゲートです。

イベント情報 & ご案内

エコプロダクツ2015

12月10日(木) 11日(金) 12日(土) **入場無料**

東京ビッグサイト 東ホール 10:00～18:00 (最終日は17:00まで)
主催：(一社)産業環境管理協会、日本経済新聞社

<http://eco-pro.com/2015/>

年末といえば毎年恒例の国内最大級の環境イベント、エコプロダクツ2015の開催まで一か月を切りました。今年も、木質化した装飾が木のぬくもりを感じると評判の「森林からはじまるエコライフ展」に、森のための4つのアクションに取り組む40以上の企業・団体が参加します。

◇ **森のなかま原稿募集** ◇

会員・読者の皆様から広く原稿を募集しています。

<広報全般についてのお問い合わせ>

松本 保 (Eメールアドレス変更)

Mail：matsutamori@jcom.zaq.ne.jp

Tel：090-7962-3168

<電子配信担当> 赤崎 さほり

Mail：s_akasaki-k_instructor@live.jp

Tel：090-6150-6173

<メール・手書き原稿送り先>

【本誌】松本 保 (Eメールアドレス変更)

〒246-0037 横浜市瀬谷区橋戸 3-46-17

Fax：045-301-9401

電話連絡先：090-7962-3168

Mail：matsutamori@jcom.zaq.ne.jp

【別冊】水口 俊則

〒250-0871 小田原市下堀 123

Tel/Fax：0465-42-7240

Mail：minagold109@kjd.biglobe.ne.jp

【別冊はCCも】福島 正治 (新事務局長)

〒214-0006

川崎市多摩区菅仙谷 3-1-1-204

Tel/Fax：044-944-9423

Mail：fukky52000@yahoo.co.jp

原稿は随時受付けています。

森のなかまは過去号もご覧になれます。

(ホームページ) <http://www.forest-kanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01>

(HP担当：井出恒夫)

編集後記

★秋は活動がたくさんあり、毎週末はほとんど家にいませんでした。そろそろ庭をクリスマスモードにしたいのですが時間のやりくりが大変です。(赤崎)

★雪の便りがちらほら聞こえて来ました。昨年から10数年ぶりに再チャレンジしているスキーが今年も滑れたらいいなあ!! (藺田)

★これから冬本番 湯豆腐を熱燗で・・・最高ですね!! (水口)

★やどりき当番時に管理棟内のダンボールにヒメネズミの子供が5匹もいました。棟裏のBコースに放置してきました。後は自然にまかせます。(松本)



下の漢字は何と読むのでしょうか？
意味は？ 画数は？ 今年最後のわからない事 ⇒ 平成28年1月号までには調べておきます。



◇ **年間通読のお申し込み**

「森のなかま」年間通読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込み下さい。
郵便振替口座 00230-0-2454
かながわ森林インストラクターの会宛までご寄附2000円をお振込み下さい。
振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。
振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

編集人： 松本 保
広報部： 水口俊則 徳岡達郎
大塚晴子 赤崎さほり
小池 哉 小川和恵 藺田栄哉
支援 伊藤恭造

**県立生命の星 日本のスゲ(菅) 勢ぞろい
— 撮って 集めた 269種 —**

2015年12月19日～2016年2月28日

スゲ属植物は世界に2000種以上、日本からは269種が知られる大きな属です。きれいな花を咲かせることはありませんが、果実期の穂は渋い美しさがあります。日本産のスゲ属植物の多様な世界を標本や写真で紹介。写真は山梨県乙女高原のタニガワスゲによる谷地坊主(やちぼうず)。寒冷地ではこんなユモラスな形になることがあります。



2015 松田きらきらフェスタ



期間：11月21日～12月25日

問い合わせ先：

松田山ハーブガーデン

TEL0465-85-1177

松田町役場観光経済課

TEL0465-83-1228